

注 意 報

長崎県病害虫防除所長

令和2年度病害虫発生予察 注意報第9号

普通期水稻 トビイロウンカ

1. 発生地域（対象地域） 県内全域

2. 発生程度 やや多

3. 注意報発令の根拠

- (1) 8月後期の巡回調査（68筆）の結果、株当たり虫数は0.4頭（平年 0.2頭）でやや多く（図1）、一部多発圃場がみられた（表）。発生圃場率は30.9%（平年 34.4%）と平年並であった（図2）。
- (2) 産卵数の多い短翅型雌成虫の株当たり虫数は県全体平均で0.02頭（平年 0.02頭）と平年並であった。
- (3) 8月6半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、株当たり虫数は1.4頭（平年 0.9頭）とやや多く、短翅型雌成虫率は73.4%（平年 53.2%）と高かった。
- (4) 気象予報（福岡管区气象台、令和2年8月27日発表）によると、向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

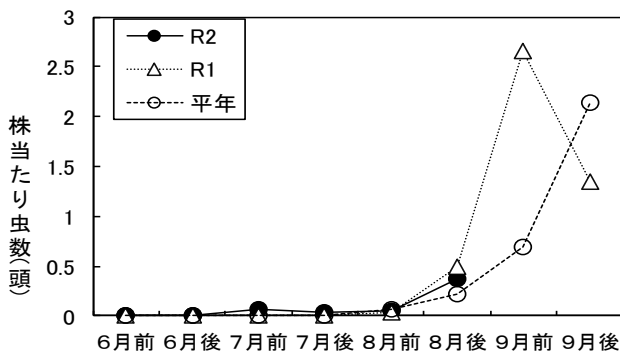


図1 トビイロウンカの株当たり虫数の推移

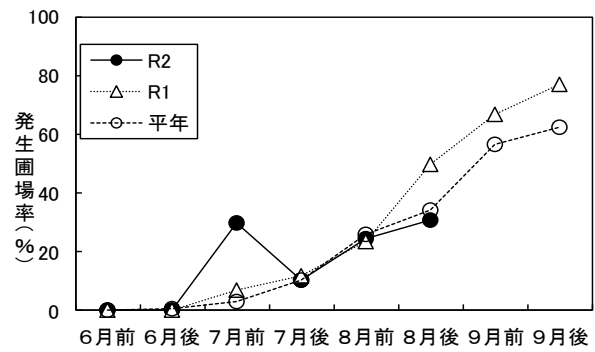


図2 トビイロウンカの発生圃場率の推移

表 普通期水稻におけるトビイロウンカの発生状況

区分		調査日	トビイロウンカの株当たり虫数（頭）			
			0	0～1未満	1～5未満	5～
振興局	県央	8月26, 27日	21 (65.6)	10 (31.3)	1 (3.1)	0
	島原	8月24, 26日	19 (95.0)	1 (5.0)	0	0
	県北	8月24, 25日	6 (37.5)	6 (37.5)	3 (18.8)	1 (6.2)
圃場数計 (圃場率%)			46 (67.6)	17 (25.0)	4 (5.9)	1 (1.5)

【8月後期】 (上段：圃場数、下段：(圃場率%))

4. 防除対策

- (1) 今後の発生予測は別紙図3のとおりであるが、本虫の発生は圃場間や同一圃場内でも偏りが大きい。このため、圃場の見回りを徹底し、圃場全体の発生状況を把握して防除を行う。
- (2) 9月上旬の要防除水準は株当たり短翅型雌成虫数が1頭以上である。
- (3) 天候不順により、予定されていたウンカ類の防除が実施できていない圃場では必ず防除を行う。
- (4) 防除実施後もその後の発生状況に十分注意し、防除効果の確認を行うとともに必要に応じて追加防除を行う。
- (5) 本虫は株元を好んで寄生するので、薬剤散布は株元に薬剤が十分に付着するよう丁寧に行う。

○6月から8月までの3か月間を「農薬危害防止運動月間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○水稻穂吸汁性カメムシ類防除のため水田に散布する殺虫剤により、ミツバチに被害が生じる可能性がありますので、十分な配慮をお願いします。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」

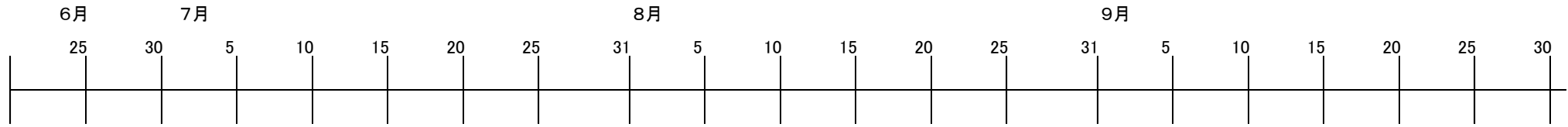
アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027



(図3) トビイロウンカの発生予測図(令和2年)



(飛来日)

6月28日	成虫	卵	第一世代幼虫	成虫	卵	第二世代幼虫	成虫	卵	第三世代幼虫	成虫
7月5日		成虫	卵	第一世代幼虫	成虫	卵	第二世代幼虫	成虫	卵	第三世代幼虫
7月8日		成虫	卵	第一世代幼虫	成虫	卵	第二世代幼虫	成虫	卵	第三世代幼虫

※ 発生予測の気温は諫早市貝津町(農林技術開発センター)のデータを用いた(8月26日まで実測値、27日以降は平年値)

※ 予察灯とネットトラップ及び圃場調査より現時点での飛来日を推定した。